

国際村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM



本場の家庭料理を味わう「せかいの台所」スペイン編 ～来夏から新調理室オープン～



国際村だより もくじ

- P 2 : 出羽庄内国際村音楽祭 2025 「アフリカの鼓動」
- P 3 : 中国語特別講座
鶴岡とラフォアをつなぐ交流の輪
- P 4・5 : 防災特集
(鶴岡市総合防災訓練、災害時に役立つ情報)
- P 6 : 第 14 回 日本語スピーチコンテスト in 庄内、
日本語教材『まるごと』の使い方研修会
- P 7 : 器の会、ぶどう狩り、
せかいの台所 (プエルトリコ、エチオピア料理)
- P 8 : せかいの台所レシピシリーズ～スペイン～
あとがき、英語特別講座お知らせ

国際村 LINE 開設のお知らせ

庄内にお住まいの外国からいらした方々に、国際村から役立つ情報をお届けします。右の二次元コードからご登録ください。



出羽庄内国際交流財団会報

vol. 97

令和 7 年 12 月 25 日 発行

10/19
Sun

出羽庄内国際村音楽祭 2025 アフリカの鼓動



国際村の二大事業の一つ、出羽庄内国際村音楽祭は、庄内で鑑賞する機会の少ない様々な国や地域の民族音楽を紹介し、国際理解や交流を促進する目的で毎年開催しています。今年は、セネガルの伝統打楽器サバルを中心としたアフリカ音楽公演を10月19日に行い、141名の方々にご来場いただきました。

ステージにはサバルの他、西アフリカの弦楽器コラやひょうたんがついた鍵盤楽器のバラフォンなど、様々なアフリカの楽器がステージに登場し、迫力あるパフォーマンスが披露されました。特に出演者全員が太鼓を演奏すると、会場全体が共鳴しているかのような大迫力の演奏となりました。サバル奏者ワガン・ンジャエ・ローズ氏、コラ奏者ヤクバ・ジャバテ（安田 尚樹）氏、打楽器奏者ヤヒロトモヒロ氏、野崎くらら氏、民族舞踊家ファルー・セック氏、オオカタ サキ氏は、各々で演奏活動をしています。今回はこの国際村音楽祭公演の為に集い、アフリカの魅力あふれる素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。

国際村の音楽祭は今年で31回目を迎えましたが、1994年に開催した記念すべき第1回公演は、ワガン氏の父・セネガルの人間国宝ドゥドゥ・ンジャイ・ローズ氏のアフリカオーケストラ公演でした。ドゥドゥ氏は10年前に亡くなっていますが、「父が来た国際村音楽

アフリカの鼓動
特別ワーク
ショップも
開催しました！



アフリカの文化や楽器について学び、公演をより楽しんでいただくため、公演前にワークショップを開催しました。ヤヒロトモヒロ氏を中心に、出演メンバーからはアフリカ打楽器カホンや弦楽器コラ等の成り立ちや演奏方法について教えていただきました。本番演奏予定曲のダンスも皆でステップを踏んで練習し、身体をウォーミングアップ！本番で皆さん楽しそうに踊っていました。



祭で自分も演奏できて嬉しい」と、ワガン氏は笑顔で語っていました。

来年の国際村音楽祭も秋ごろを予定しています。どの国の民族音楽をご紹介できるか未定ですが、皆様に音楽を通して民族文化のご紹介ができるプログラムを企画していきたいと思います。





中国語特別講座

国際村では、ネイティブスピーカーと実践的な会話を学ぶことを目的に、英語、中国語、韓国語特別講座を行っています。

中国語で巡る上海・四川・台湾の旅



先生方と参加者の皆さんで記念写真
辛苦了!

9月28日(日)に、2年振りの《中国語特別講座》を開催しました。今回は旅行をテーマに「上海」「四川」「台湾」の3つのブースに分かれ、各地への旅行を想定し、現地ですぐ使える中国語会話をネイティブ先生方と楽しみながら練習しました。

日本ではあまり見かけない中国、台湾で人気のお菓子とお茶も飲みながら参加者と和気あいあいと会話をしている様子も見られました。

講座の最後には、テレサテンの歌「甜蜜蜜」を中国語で習って、皆さんと一緒に歌いました。

参加者の皆さんからは「あっという間に楽しい時間が過ぎた」「レベルに合わせ、例文の資料もあってありがたい楽しかった」「歌を歌うのはなかなか良かった」などの感想をいただきました。



▲上海ブース



▲四川ブース



▲台湾ブース



▲お菓子付のお茶会



鶴岡とラフォアをつなぐ交流の輪



国際村敷地内にある「カーズ(ニューカレドニア先住民族の伝統的な建物)」の修繕と節目の年を記念した両市を結ぶオンライン交流会が開催されました



10月4、5日の両日、鶴岡・ラフォア友好協会の会員・関係者ら合わせて24名によりカーズの修繕工事が行われました。鶴岡市とラフォア市の友好の象徴として、平成10年に先住民の代表の方々が国際村敷地内にカーズを建築し、平成27年には修復とともに今後の維持管理のための技術を教えていただきました。今年は来鶴したラフォア・鶴岡友好協会のフィリップ・ロンバルド会長の指導のもと、傷んだ屋根と外壁を新しい茅で葺き替えました。作業を通じてより一層の絆を深めるひと時となりました。

11月15日ラフォア市とのオンライン交流会が開催され、盟約30周年を祝いました。友好協会会員をはじめ、ラフォア中学校と文通交流をしている第一中学校の生徒や国際村のフランス語講座受講者など計40名が参加。これまでの両市の交流のあゆみの映像の上映やクイズ大会などで盛り上がりました。またオンライン交流後はニューカレドニアとフランス料理が振舞われ、参加者は料理を囲みながらこれまでの歩みを振り返り、これからの交流について各自の思いを語り合いました。

11/9
(日)

日本語教室・通訳ボランティアが参加 鶴岡市総合防災訓練 in 湯田川

11月9日に開催された「鶴岡市総合防災訓練」に、国際村から日本語教室の学習者など28名が参加しました。この防災訓練は鶴岡市で毎年行っている訓練で、今年は湯田川地区で開催されました。

外国人ホテル避難移送訓練では、中国語圏出身の4名が外国人観光客役、1名が通訳役で参加しました。訓練は湯田川温泉に宿泊中に地震が発生したという設定で行われ、地元住民の呼びかけによりロープにつかまりながら二次避難所であるコミセンへ避難したり、帰国までの対応について通訳を通して説明の訓練を行ったりと、実際の場面と同じように訓練をしました。

また、コミセン内や駐車場周辺にはさまざまな防災ブースが設けられ、参加者は普段は目にする機会の少ない災害対応車両やトイレカーの見学をしたり、段ボー

ルベットや仮設入浴施設での足湯体験を通して、災害時の対応について学んでいました。

訓練用消火器を使った体験では、的に向けて初期消火活動を行いました。インドネシア出身の留学生達は、初めて使う消火器にはじめは戸惑った様子でしたが、使い方を教わると「火事だー！」と声を出しながら訓練していました。

その他、非常食の試食や、火災の煙から避難する煙体験などにも参加し、実際の避難所の様子を知ることができました。

地域に住む外国出身者と住民がともに防災訓練を行い災害時の対応を知ることが、災害が起こった際に協力しやすい関係作りに繋がります。防災意識を高める機会となりました。



外国人ホテル避難移送訓練の様子



トイレカー見学



炊き出しの試食



外国人ホテル移送訓練に 通訳役で参加

安達 雅子さん (台湾出身)

私は外国人観光客の通訳の担当で、初めて総合防災訓練に参加しました。日本は頻りに地震が起きる国と知っていますが、防災対策についての知識がほぼありません。

消火器の操作を実際に体験し、初期消火の方法や重要さを学びました。煙体験では避難時の姿勢を学び、煙が充満した際の視界の悪さや怖さ、危険感を実感できました。避難所のライフライン関連設備が充実していて安心感を得られました。

今回の防災訓練を通して訓練の必要性を改めて認識しました。今後もっと災害時の適切な行動や知識を習得できるように、日頃から備え、防災への意識を高めるため、定期的に防災訓練に参加したいと思います。



防災訓練に参加してみた

ズルフィカーさん (インドネシア出身)

日本で防災訓練に参加したことは、とても意味のある、視野の広がる経験でした。

イベントはとても楽しかったです。ドローンを操作したり、パトカーや自衛隊の車にのったり、煙の部屋を体験したり、非常食を食べたりしました。おかげで学びの経験になり、良い思い出になりました。

インドネシアの田舎の地域では防災訓練はほとんど行われず、安全のための設備は限られているか、使うことができません。そのため準備ができていないので、実際の緊急時にはパニックになってしまうかもしれません。

普段の訓練や適切な施設、地域の防災意識がどれだけ大切かを教えてくれました。



主催者より今回の訓練についてコメントをいただきました

鶴岡市 防災安全課 岡部 純さん

Q1 今回“外国人観光客”を想定して訓練されたのはなぜですか？

A 本市を訪れる外国人観光客等の多くは日本語を十分に理解できず、災害時には自分自身での災害対応が難しく、特に配慮を要する「要配慮者」となります。このため、地域における初動対応として、ホテル等での受入を想定した訓練を実施しました。



Q2 外国人移送訓練をするにあたってどんなことに気を付けましたか？

A 言語の壁がスムーズな移送の妨げになることが予想されます。そのため、訓練では出羽庄内国際村の通訳の方に御協力いただき、不安やストレスを感じることなく円滑に移送できるよう努めました。

Q3 市民の皆さんにメッセージをお願いします

A 外国人の皆さんは、言葉の壁や文化の違いから、避難行動や避難所生活のルールを十分に理解できず、不安を感じたり、困ってしまうことがあると思います。こうした不安や困りごとを把握し、事前に対策を講じていくことが大切になりますので、引き続き御協力いただきますようお願いいたします。



災害時に役立つ情報

■防災ハンドブック（鶴岡市）

シチュエーションに応じた避難所のマップや各種災害の基礎情報や備え、災害が起きた時の対応などの防災情報を盛り込んだハンドブックです。英語、中国語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語の5言語あり、鶴岡市や国際村のホームページからダウンロードできます。



鶴岡市ホームページ ▶



■ハザードマップ（鶴岡市）

鶴岡市内の避難する場所を確認できます。

URL → <https://www.city.tsuruoka.lg.jp/anzen/hazardmap/index.html>

ハザードマップ ▶



■災害時に便利なアプリとWEB サイト（内閣府）

災害時に便利なスマートフォンのアプリとWEB サイトを見ることができます。（多言語対応）

URL → <https://www.bousai.go.jp/kokusai/web/index.html>

■防災ポータル（国土交通省）

気象・警報・災害に関するリアルタイムの情報や、被害情報、災害に関する様々な情報を知ることができます。（多言語対応）

URL → <https://www.mlit.go.jp/river/bousai/bousai-portal/index.html>

12/7

日



第14回



日本語スピーチコンテスト in 庄内《遊佐会場》

2011年から始まった「日本語スピーチコンテスト in 庄内」は今年で14回目を迎えました。このコンテストで外国出身者が自身の体験や意見を日本語で発表することにより、地域住民が外国人の考えや価値観、文化や習慣を知り、偏見や誤解が減っていくことが期待されます。庄内地域2市3町一円で開催しているこのスピーチコンテストが長年継続しているのは、地域全体で多文化共生事業に取り組んでいる証だと思えます。

今年のコンテストは遊佐町生涯学習センターで開催され、7か国8名の庄内在住の外国出身者が発表しました。出羽庄内国際村の日本語教室からは、「朗読の部」の3名と「スピーチの部」の2名が出場しました。

「朗読の部」ではアメリカ出身のタルマーシ・ヒューさんが『挨拶が嫌いな王様』を朗読し、「ベスト朗読賞」、同じくアメリカ出身のネイサン・ヴェグダールさんは『あまはげってね』を朗読し、「奨励賞」に選ばれました。「スピーチの部」の優秀賞はボリビア出身のサンチェス・セバジョス・フロレンシオさんが受賞。彼は「ボリビアと日本の文化の違い」というタイトルで、いろいろな例を挙げながら、戸惑ったことや嬉しかったこ

※各出場者のスピーチ内容は庄内日報に掲載される予定です。聞き逃した方は、ぜひご覧ください。

となどを話してくれました。大賞に選ばれたのは、まだ来日1年のフィリピン出身のパハリロ・プリンセス・ウィンナ・ケベルタスさん。「ほんとうのおみやげ」と題し、自身の経験から本当のお土産とは品物ではなく心、チャンス、夢、そして今度は自分がそのお土産を皆さんに送りたい、と熱く発表してくれました。

朗読もスピーチも、それぞれ自分の気持ちと感情を込めた発表を聞かせてくれました。全体の発表のレベルは毎年上っていて素晴らしいコンテストでした。

来年の会場は三川町です。今から次回のコンテストが楽しみです。



日本語指導ボランティア研修会

～日本語教材「まるごと」の使い方～

出羽庄内国際村日本語教室では、日本語指導ボランティアの指導力向上のため、スキルアップ講座を開催しています。今年も昨年に引き続き、村上充先生（元 株式会社アルク『月刊日本語』編集長、日本語講師）をお招きし、研修会を行いました。

令和7年10月現在、鶴岡市在住の外国出身者は1000人を超え、出身国も50カ国に上っています。日本語を学ぶ人々の目的やニーズはますます多様になっています。教材にも文法を中心に学ぶものもあれば、コミュニケーション力をつけることに重点を置いたものもあります。

10月18日に開催した研修会には、国際村日本語教室をはじめ、酒田市のべにばな会と山形ベトナム協会の方も含め、計18名に参加いただきました。今回の研修会では、国際交流基金の日本語教材『まるごと』を使った活動方法について学びました。

この教材は、会話音声をたくさん聞き、話す活動を通して、コミュニケーション力をつけることに重点を置いています。これまで国際村日本語教室で、主に使用してきた『みんなの日本語』の文法積み上げを中心とした内容と異なる部分もあり、研修会ではこれらの

教材の比較も行いました。

今回の研修会を参考に、これからも学習者のニーズに合わせた適切な教材選定や指導方法の改善につなげていきたいと考えています。



村上 充 先生



日本の家庭料理の味を学ぶ 器の会

9/27
(土)

「器の会」は日本語教室の学習者を対象に行っている料理教室です。今回は6名の学習者が参加し、この時期しか味わえない新米と、鶴岡特産のだだちゃ豆を入れたハンバーグ、とうもろこし、かぼちゃ、玉ねぎのみそ汁、みかん入り牛乳寒天の4品を作りました。



講師から、お米をおいしく炊くコツ、みそ汁の具材やみそを入れるタイミングなどを教えていただきました。

学習者の出身国についての話題で会話が弾み、調理中や会食は和やかでにぎやかな会となりました。

また、講師手作りの梅干しは、学習者に大好評！日本の伝統的な味に触れる体験となりました。



日本語教室のぶどう狩り

毎年秋になると、日本語教室の皆さんが楽しみにしているのが「ぶどう狩り」です。今年も9月21日(日)に日本語教室の学習者や日本語指導ボランティア、その家族と友人計38名で櫛引のぶどう農園を訪れ、秋の味覚を楽しんできました。

農園には赤や緑、紫色など、様々な色・種類のぶどうがあり、参加者の皆さんは、ぶどうを片手に記念写真を撮り合い、最盛期となった品種高尾や安芸クイン、マニキュアフィンガーなどを摘み取って味比べを楽しみました。やはり参加者に一番人気だったのは皮ごと食べられ種のないシャインマスカットでした。

この「ぶどう狩り」は、学習者同士や指導ボランティアの皆さんとの交流を深めるために毎年開催しています。庄内の秋の味覚を楽しみながらの日本語会話は、普段の日本語学習とはまた違って、良い勉強の機会となりました。今度はぶどう以外の庄内の味を楽しんでみてもいいですね。



国際村の料理教室

『せかいの台所』

6/22 プエルトリコ料理

今年度2回目のせかいの台所では、プエルトリコ出身のリマリ・ロドリゲスさんを講師に迎え、爽やかな甘酸っぱさとコクがマッチしたグァバとチーズのパイ包み焼き、スパイシーな風味のチキンの串焼きと青バナナフライ、甘くてクリーミーなパイナップルとココナッツミルクのノンアルコールの4品を教えてくださいました。

青バナナフライは珍しさもあって、参加者の興味を引いていました。ホクホクとした食感とほんのりした甘み特徴で、プエルトリコから持参して下さった万能調味料で塩味が加わり、とてもおいしいと好評でした。

さらにプエルトリコの主食や青バナナを使った他の料理についても紹介してくれました。



8/31 エチオピア料理

今年度3回目はエチオピア出身のウォルデ・ウバイエフ・ゲブレメディンさんとイエネエナフ・フィクルタ・イグザウさんを講師に迎え、エチオピアの伝統料理である、ドロ・ワット(香辛料が効いたスパイシー・シチューとマイルド・シチューの2品)を教えてくださいました。

クレープのような見た目のインジェラは、エチオピアの代表的な主食で、ウバイエフさんがぜひ参加者の皆さんに味わってほしいと準備してくれました。発酵による独特の酸味とふんわりとした柔らかな食感が印象的でした。香辛料が効いた濃厚シチューと合わせていただき、本場の味を体験することができました。



～来年度より調理実習室が1階に新設されます～

現在、改修工事中の調理実習室は2階から1階に移動し、調理台もこれまでの3台から6台に増えます。新しい調理実習室での「せかいの台所」開催をお楽しみに！



ホームページより、《せかいの台所レシピ集》をご活用ください。

今回のプエルトリコ料理とエチオピア料理、P8に掲載のスペイン料理のレシピはもちろん、今まで実施してきた各国の料理のレシピを紹介しています。

せかいの台所 レシピシリーズ



スペイン料理



講師 サンドラ・バルンシアーノ・ベジドさん
(スペイン・マドリッド出身)

10月25日に開催した「せかいの台所～スペイン料理～」よりトルティージャ エスパニョーラ (じゃがいもと玉ねぎのオムレツ) を紹介します。



TORTILLA ESPAÑOLA 【材料4人分】

- ・じゃがいも…4個
- ・玉ねぎ…1/2個
- ・卵…6個
- ・オリーブオイル…量はお好みで浸せる位
- ・塩…少々
- ・フランスパン

作り方



①じゃがいもの皮をむき、スライサーなどで薄切りにする。



②玉ねぎをみじん切りにする。



③じゃがいもと玉ねぎをオリーブオイルで焼き色がつき、火が通るまで揚げる。



④できるだけ余分な油を取り除いたじゃがいもと玉ねぎをボウルに移し入れ、卵と塩を加え、よく混ぜ合わせる。



⑤フライパンにオリーブオイルを数滴入れ、④を戻し入れ、蓋をして中火で片面12分ずつ焼く。



⑥焼けたトルティージャを切り分け、フランスパンにのせ串で刺す。

あしがき



「まごわやさしい」とは栄養バランスの良い和食の基本を表し、食材の頭文字などからなるもので、最初の「ま」は豆類のこと。12月9日は鶴岡市を含む庄内地域の行事食である大黒様のお歳夜。農業神でもある大黒様に収穫の感謝と子孫繁栄を祈願する。黒豆ご飯、納豆汁など豆尽くしのご馳走は、「まめである(健康)」ことから、家族の健康も祈願する。お膳に欠かせないのがはたはた(鱒)。子だくさんとしての雌の焼き物。それに二股の大根が添えられる。鱒の値段を見て、ししゃも(学名オスメラス・ランセオラタス・ヒキタ)でいいのではと家族が提案するが、卵数では大きく上回るので良さそうな気はするが、名付け親の疋田豊治(鶴岡市日枝出身)はどう思うだろうか。「普段食べているししゃもは別物で、樺太ししゃもという」と。

小学4～6年生対象



英語特別講座のおしらせ

今年の英語特別講座は小学4年生～6年生対象の子ども向け講座です。ゲーム等を通して楽しく英語を学びます。外国出身の講師がやさしく教えてくれるので、英語が苦手でもOK!英語を使った楽しいアクティビティを予定していますので、お楽しみに!詳細はホームページなどでお知らせいたします。

- 日 時: 令和8年3月8日(日) 14:00～16:00
- 参加費: 1,000円
- 場 所: 国際村ホール
- 対 象: 小学4年生から6年生まで
- 定 員: 先着25名
(10名以上で開講)

外国出身の先生方と
楽しく英語に
触れてみましょう♪

